りんちゃんの病院探検 1病棟

1病棟は小児整形外科を中心に、成人と小児の混合病棟となっています。長期入院の患者様も多いため、治療継続のモチベーションを維持できるよう、季節に合わせて病棟外での活動や制作活動を行いながら日々の看護につなげています。3月・4月は患者さんやご家族と手形アートで満開の桜を作り、たくさんの笑顔を見ることができました。また、天気の良い日には病院の敷地内にある桜の木を見に行くなどし、入院生活の中で少しでも気分転換できるよう、スタッフ全員で考えながら取り組んでいます。入院中でも笑顔が多いのが1病棟の自慢です。　（1病棟看護師長　奥野　智史）

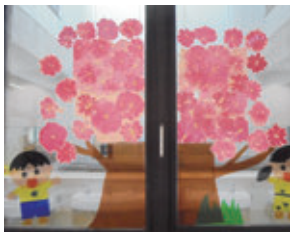
次回は2病棟です

2病棟の子どもたちの生活のひとコマ

新年度が元気にスタートし、満開に咲いていた桜の木も花から葉に変わってきましたね。2病棟ではスタッフの顔ぶれが変わり、気持ちも新たに患者様へより良い入院生活の支援ができるようかかわっていきたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、春休み中に入院していた子どもたちは、園芸活動で中庭に植えたチューリップが綺麗に咲いたことを喜び「大きくなぁれ!」と水やりをしたり、桜や草花、テントウムシやチョウチョウなど春の自然に触れたりしながら治療の合間の時間を過ごしました。

また、病棟内の窓にも大きな桜の木の飾りがあり、絵の具スタンプを使った子どもたちの制作で満開になりました。「私が作った桜これかな?」「すごい、いっぱいだね!」と1番早く咲いた桜の木を見ながら、入院生活を最後まで頑張り、笑顔で退院していくことを願いました。今年度も入院中の子どもたちの姿をたくさんお知らせしていきたいと思いますので、どうぞお楽しみに。



(保育士　森田　清香)

糖尿病ワンポイントアドバイス No.10

～糖尿病合併症の検査～

糖尿病の合併症として、心筋梗塞、脳梗塞、末梢動脈疾患（PAD）などの動脈硬化性疾患が知られています。糖尿病の方は健常者に比べて、これらの疾患の発症率が3～5倍高いと報告されています。

その中でも、末梢動脈疾患（PAD）は、下肢などの末梢の動脈が狭くなったり詰まったりして、痛みや潰瘍、壊疽（組織の壊死）がおこる疾患です。進行して重症になると、手術が必要となることもあります。そのため、早期発見、早期治療がとても大切です。

動脈硬化性疾患の検査には 、CAVI（心臓足首血管指数）とABI（足関節上腕血圧比）があります。

どちらの検査も動脈硬化の早期発見に役立ちますが、CAVIは動脈の硬さ、ABIは血流障害の程度を評価する点で異なります。

CAVI（Cardio-Ankle Vascular Index）

- **目的**：動脈の硬さを評価します。
- **測定範囲**：心臓から足首までの動脈全体の硬さを測定します。
- **特徴**：血圧の影響を受けずに動脈の硬さを評価できるため、動脈硬化の進行度を正確に把握できます。

ABI（Ankle-Brachial Index）

- **目的**：下肢動脈の狭窄や閉塞を評価します。
- **測定範囲**：足首と上腕の血圧を比較し、その比率を計算します。
- **特徴**：下肢の血流障害の程度を示し、動脈硬化による血管の狭窄や閉塞を検出します。

実際の検査は、仰向けに寝た状態で両上腕、両足首に血圧計のカフを巻いて、血圧を測定します。5分程度の簡単な検査で、腕とひざ下が出せれば着替える必要もなく、検査結果も「動脈の硬さ（血管年齢）」「動脈の詰まり」を、わかりやすいレポートでお渡しします。定期的に検査を受けて、早期発見、早期治療を目指しましょう。　（検査科　宮岡　沙希子）